

遷宮への思い新たに 万九千神社 神主 錦田 剛志さんに伺いました。

平成25年1月15日

●まず、錦田さんからの質問「今日の取材の主旨は？」

《金築人・地域グループリーダー》出雲ブランド化推進市民委員会 人・地域グループは、出雲に住む「人」の話を聞き、その方を紹介するとともに、出雲の魅力を発信します。人の言葉の中に出雲の魅力がたくさんあることに、取材をしてきた中であらためて気づかされました。

今年の取材では、なぜか神様にかかわる方に多く当たっています。



《錦田さん》てっきり神社庁としての公式見解をのべるのかと思って緊張していましたが、私の言葉で良いですね。気が楽になりました。

● 2足のわらじを脱いだこと

四十にして惑わず。ということで、40歳を機にそれまで務めていた島根県教育庁を退職し、神職に専従しました。いろいろ苦勞もありますが、自分の人生設計、果たすべき役割、ポジションが明確になりました。

学芸員として、古代出雲歴史博物館のオープンに携わった県職員時代。「県民の皆さんのために働く仕事」だったが、いわば天職の神主と本職の公務員の2足のワラジを履いていることに大いに悩んみました。収入面も安定していましたが、誰かがお宮（万九千神社）のことを、また「神在月」の神事を受け継ぎ護っていかなければという思いが強くなっていった。公務員は私がいなくても、優秀な代替りの方がいくらでもいる。でも代々の万九千神社にお仕える神主の代替りはいない。相当悩んだあげく、平成21年3月に県庁を退職。家族からは反論もあった。

今は島根県神社庁に参事として関わらせていただいております、県内の神社 1,165 社、神職 700 人の運営、任免、研修、広報活動等の事務局とりまとめ役を仰せつかっている。

● 神々の国“出雲”

伝統的、精神的に豊かな“出雲”。

地域の関わりは、ともすれば「しがらみ」とか、濃過ぎる人間関係と重荷に感じられたりするが、日本社会の混乱と真逆のことが“出雲”にはある。見えないものに怯え、感謝している。

お金があっても、人の価値はお金では決まらない。経済性や合理性に走り過ぎている。日本人はもっと精神の奥深いもの、心の価値を大事にしてきた。明治以降の近代化の中でその気持ちが薄れ、忘れ去られるような傾向にあったが、「3.11」（東日本大震災）以降、人と人の心の結びつき、受け継ぐべき思いやりの心を再び取り戻す機運がある。



● 「神話博しまね」から出雲大社平成の大遷宮に向けての大きな意味

古事記を紐解く「神話博しまね」について、県内では、藤岡大拙先生、川島芙美子先生と3人でアドバイザーをさせていただいた。だから、持ち上げるわけではないが、大きな意味を持つイベントである。

「神々の国しまね」のイメージアップを県内外に広く図っていくため、「神話博しまね」が開催された。大いに効果はあったと思う。いよいよ平成25年は、出雲大社の「平成の大遷宮」を迎える。遷宮とは一言で言えば、原点に回帰することで、神様の力が弥増しに増し、社会も人々もそのおかげをいただいてパワーアップするための一大祭儀。人々が、原点に帰ることの大切さに今一度思いを馳せて、国・地域・人々が力をとり戻すことが大切である。まさしく東日本大震災を含む様々な国難とも言うべき状況の中で、大切な日本の心と魂の復興、復活を果たさねばならないのではないか。



「甦り」に思うこと。神話の中で、大国主大神（だいくくさん）は何度も命の危機にさらされている。しかしその都度、母神や女神の助力を得て、復活、復興し、偉大なる国のあるじの神となった。

今回の出雲大社の御修造で、千木（ちぎ）、勝男木（かつおぎ）に被災地のご用材が使われている。甦り、復興のシンボルとして、“出雲”の地が持つ意味を発信していくことに非常に大きな役割を感じている。

「神々の国しまね」の事業を展開する中で、もう一つ忘れてはならないこと。それは、学校や地域でふるさとのことをもっと知ろうとする動きが出たこと。

神話を忘れた民族は滅びるといわれる。“出雲”は中央から離れていたため、偏ったイデオロギー抜きで神々や神話を大切に受け継いできた。

別の見方をすると、根っこ（ふるさと）を忘れると植物は腐る。もう1回日本人として、我が国の文化、伝統の核は何か、人間として大切な価値は何か、に思いをいたすことが大事ではないか。そのことを率先して発進できるのが“出雲”。なんとといっても、全国の神々は出雲に集まられるのだから。精神社会の中心は“出雲”にある。

● “出雲” “島根” の魅力を伝えること

《小城委員》日本人の原点が“出雲” “島根”にある。県外の友人達は、島根県に感動する。

《錦田さん》謙虚、慎みの強い人柄からだと思うが、確かにその魅力を充分にお伝えできていない。

神々の国しまね実行委員会でも幾度か話したが、口下手がPR下手の理由ではないと思う。

人にもものを売る、知ってもらふ、にはインパクトが大事。今回も、県土の均衡を優先するがあまり、多様な魅力を持つ細長い県を、押し並べてPRしている。神々の国は「しまね」ではなく、「いずも」である。しまねではピンボケになる。例えば次の主たる観光戦略の地域は、「なつかしの国、神楽のふるさと石見」にしてPRする。その次は、例えば「目指せジオパーク、絵のように美しい隠岐国」といったふうに、地域を絞り、重点的、集中的に投資して、きちんと魅力を伝えた方がいいと思う。その方が相乗効果で県土全体の観光発展が望めるのではないか。

● “日本”の“出雲”の魅力

《小城委員》誠実で、利用することが下手な日本人の心が、リーマンショック以降、海外で見直され、著書が読まれるなどしている。お金だけが一人歩きしては、経済さえもダメになる。

《錦田さん》外を知った人は、内の良さがよく分かる。特徴のないまちづくりでは誰も興味を持たない。神さん、仏さん、ご先祖さんをはじめ、都会の人が忘れ去ろうとしている心の世界が“出雲”には生きている。それが、都会地に済む人々を出雲へ誘っているのではないか。残念なのは、地元の人たちがそのことに気づいてないこと。もったいない。

《藤原室長》まさにそのことをしたいと思っているのが、出雲ブランド化推進の事業です。

《錦田さん》陳腐な安っぽい観光戦略に陥らないことが大切。“出雲”が持つ高い精神性を訴えるべきであろう。そして私たちが誇るべき出雲の文化を次の世代に、子ども達に繋ぐことが、今大事なことだと思う。

《小城委員》キーは子ども。「人の地産地消」とも言っているが、人材を育て、地域で活躍してもらうことが、この地の経営者にとっても課題である。

《錦田さん》潜在的な財産、宝が出雲にはある。「出雲」の地名にもある。1回来られた方がもう1回来るところ。伊勢も同じだが、うまいものがある、人がいいところは、神さまもお好きなところである。

●夢、課題は？

目先は、わが社（万九千神社）の遷宮。111年ぶりに軸立遷宮を控えている。万九千神社の御遷宮が目下最大の課題である。

《平田委員長》神門通りインタビューでのこと、万九千神社での直会の話を知らない観光客が多くあった。せっかくの万九千神社の物語をもっと知ってほしいと思った。

わらじ1足となり（県職との両立を辞め）、神さまと人々との「仲とりもち」として、心の部分で人のお役に立ちたい。これが私の一番の使命。

そうしたうえで、ここ出雲だからできることとして、軽々しく使いたくない言葉だが、絆、結びつき、ぬくもりを伝えていけたらと思う。

祭りは、人間が「らしさ」を取り戻す、心に安穩をもたらし、生命力を鼓舞する時間と空間。神主は、この空間のプロデューサーと言える。大切に受け継いでいきたい。

●神在月神事の万九千神社の神等去出祭を、今年から旧暦に戻されましたね。

大変でした。（出雲大社等の神事と同じく）神事の開催日を旧暦で執り行うように戻さなければ、（神在祭の期間中に神等去出祭があるという矛盾があり、）そうしないと神様に嘘をつくようで……。地域の方が心待ちにしている市などの賑わいは続けてほしいとの思いもあり、これまで神等去出祭

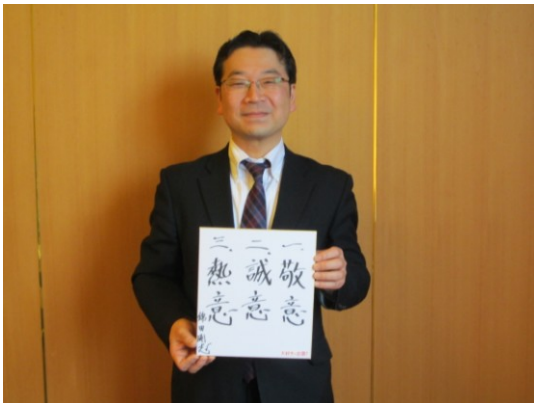
を営んでいた新暦の11月26日は特別祈願祭として毎年続けたい。

お忌みまつりの本当の姿。斐伊川のほとりでの独りで行う神事は、寒くもあったが、その厳かさに自ら緊張し震えた。手の震えが止まらなかった。神迎えからの10日間は、厳重な忌みの生活、潔斎を続ける。本来は全てを神々に仕えることで過ごさねばならない。神等去出祭を終えた日には、本当にとけるように眠りについた。

市民にお忌みさんの風習が残るのは、古来から、神職だけでなく庶民も一緒に神事に関わっていたから。例えば、からさでの夜に騒ぐと、神様が尻をなでられるとか、罰があたるとか、妖怪みたいなが、おぜもん（怖いもの）が来るとか、いろいろ言われてきた。目に見えないものに対する恐れや敬謙さを伝えることが必要だと皆感じていたのでしょう。このことが人間の奢りを抑制して良い意味での慎みのところなどにつながる。行事の中にあるよい面、高い精神性に接してほしいと思う。心の甦りの先頭に立つのは“出雲”。目に見えない神々が集う処は、この地をおいて他にはないのだから。

●出雲の好きなものは？

場所・風景では、斐伊川と雲。食べ物、お酒。御神酒としていただくとしておいてください。



●好きな言葉は？

一、敬意 二、誠意 三、熱意

学芸員の頃から大切にしてきた言葉。「熱意を持つ」とよく人は言われる。しかし、何かに向かう時、熱意は秘めてあっても大丈夫。まずは「敬意」が大切だと思う。全てのものを敬い、感謝すること。そして、内に真心（誠意）を持てば、最後に熱意がわき出てくるはずと信じている。

～取材終了～

“神在月”をはじめ神話の世界における“出雲”がすごい所だと教えていただきました。

日本人の心に大きな影を落とした東日本大震災からの復興も、出雲から発信する精神文化が大きな役割を發揮するとの言葉に、出雲の真のブランド化が果たすべき特別な意味を感じました。

